

THANKS

BUSINESS NEWS LETTER

(VOL. 182)

発行日：平成24年8月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-1118
埼玉県所沢市けやき台 1-41-11
TEL:04-2922-1417
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「日本一わかりやすい会計の基本⑪」～ 貸借対照表の5つの区分

今、本誌では「日本一わかりやすい会計の基本」というテーマで特集しています。
前回から、貸借対照表についての説明に入りました。
今回は、その続き。
貸借対照表の具体的な内容を説明していきます。

●貸借対照表とは何か？・・・前回の続き

前回のTHANKSでは、貸借対照表は、以下のように説明しました。。

ある時点で、会社が持っている財産と、その財産を作っている財源を確認するための道具
・・・財産明細／借金明細のようなもの

●貸借対照表の基本構造・・・前回の続き

貸借対照表の基本形

資産の部		負債の部	
財産 →		負債合計	××円
		純資産の部	
		純資産合計	××円
	資産合計	負債・純資産合計	××円

← 財源（調達方法）

左と右の箱の合計は変わらない

貸借対照表は、上記のような2つの「箱」でできています。
 左の箱は「資産」といって、その会社が、その時点で持っている「財産」が書かれます。
 一方、右の箱は、「負債及び純資産」といって、その財産を作っているお金の出所（財源）が書かれます。
 ちなみに、財源の「負債」と「純資産」ですが、「負債」とは借金のこと、「純資産」とは自分のお金のこと。
 左右の箱を合わせて読むと、「ある時点で、××円分の財産を、借金××円と、自分のお金××円で作っている！」となります。
 従って、この左右の箱の合計金額は必ず同額。
 貸借対照表は英語で「バランスシート（Balance Sheet 略してB/S）」と言いますが、これは、「左右箱の合計金額が常に同じ（＝バランスしている）」という意味からきています。

●貸借対照表の5つの区分

上記の通り、貸借対照表の構造は大きく分ければ左右の2つの箱（財産と財源）。
 さらに、右の箱は「他人の金」と「自分の金」の2つに区分されます。
 この「左が1個と右が2個」の3区分でも良いのですが、さすがに少し粗すぎませんか？
 ひと言で「財産」と言っても、いろいろな種類の財産がありますし、借金の形態も様々です。
 ここで、もう少し分かりやすくするために、左右の箱に1本ずつ、補助線を引いて、さらに箱を区分したいと思います。

資産		負債	
流動資産	現金・預金 受取手形 売掛金 商品 (製品、仕掛品、原材料) その他	支払手形 買掛金 短期借入金 未払金 その他	流動負債
	固定資産	建物 設備 土地 投資有価証券 その他	
			純資産
		資本金 資本剰余金 利益剰余金 評価換算差額 その他	
資産合計		負債・純資産合計	

1. 流動資産

それでは、上記の補助線の意味について確認して行きましょう。
 まずは、資産の中の補助線から。

補助線の上の箱は、「**流動資産**」と呼ばれますが、ひと言で言えば、「現金と、その仲間たち」。
 今、「持っている現金と今後1年以内に現金に変わるであろう財産」が記載されます。

ちなみに、現金と預金は、置いてある場所の違い。
 現金は会社の金庫の中で、預金は銀行の金庫の中。
 基本的には「同じもの（＝現金）」と考えていただいて結構です。

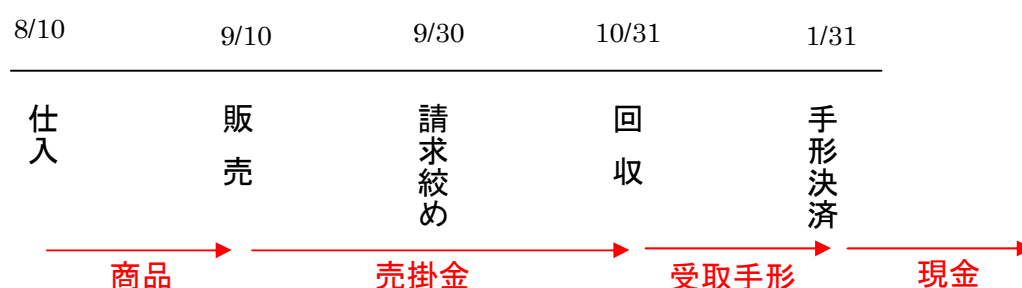
それ以外の流動資産としては、受取手形と売掛金があります。
これらは、「**売上債権**」と言われます。

<参考：売上債権とは？>

ほとんどのの方がご存じだとは思いますが、一応、売上債権について確認して行きましょう。

通常、皆さんがコンビニエンスストアで商品を買ったり、ラーメン屋で飲食をした際には、その場で代金を現金払うことが多いでしょう（＝即金払い）。
しかし、ビジネスの世界、特にお客様が企業の場合は、即金払いは稀。
ほとんどの場合はツケによる取引です。
（ビジネスの世界の場合のツケは、「掛（カケ）」と言います）

例えば、100万円の商品を「月末締め翌月末払い90日手形」という取引条件で販売した場合は、以下ようになります。



9月10日に販売しても、「ツケ」なので、その日に100万円はもらえません。
それでは、「締め」の9月30日は？
「締め」というのは、単に、その月の取引金額を「合計」するタイミングですので、この日にももらえる訳ではありません。
「なぜ、『締め』が必要なのか？」
そんな声が聞こえてきそうですが、その理由は、請求／支払業務を楽にするため。
月に何回も取引をしている場合は、取引毎にいちいち請求／支払をしていたら面倒なので、「一括」した方が合理的です。
その「一括の請求金額／支払金額」を計算するのが「締め」です。

それでは、「翌月末払い」の10月31日は？
もし、取引条件が「月末締め翌月末払い現金」ということであれば、この日に100万円もらえます。
しかし、「90日手形」ということであれば、もらえるものは「今日から90日後に100万円払います」という約束が書かれている「紙切れ」だけ。
現金をもらえるまで3カ月待たなければなりません。

上記の取引の場合、販売した9月10日から、手形をもらう10月31日までの間が「売掛金」。
そして、1月31日に決済されるまでが「受取手形」。
「将来的にお金をもらえる権利」ということで**売上債権**と呼ばれます。

次に流動資産を代表するものが「商品（在庫）」です。
製造業の場合は、「原材料」や作りかけの「仕掛品」、さらに出来上がった「製品」が並びます。
このような財産のことを「**棚卸資産**」と呼びます。

<参考：流動資産の変化>

資産				
現金・預金				100
受取手形			100	100
売掛金		100	100	
商品 (製品、仕掛品、原材料)	80	80		
その他				
	8/10	9/10	10/31	1/31

↑ 現金化の「流れ」の中にある

先程、売上債権を説明した際に使った事例を用いて、流動資産の変化を見てみましょう。

- 8月10日 : 80万円の商品仕入れ ⇒ 商品欄に80万円が記載されます。
9月10日 : 100万円で販売 ⇒ 商品が無くなり、代わりに売掛金が100万円発生します。
10月31日 : 手形の回収 ⇒ 売掛金が無くなり、その分の受取手形が発生します。
1月31日 : 手形決済 ⇒ 受取手形が無くなり、その分の現金が発生します。

「商品→売掛金→受取手形→現金」と現金に向かって形を変えていますよね。
このように現金化の流れの中にあるので、こうした財産のことを「**流動資産**」というのです。

2. 固定資産

補助線の下のは、「**固定資産**」と呼ばれます。
流動資産以外の財産です。
例えば、土地、建物、設備、さらには、子会社や関連会社の株式など。
こうした財産は、いつまで経っても購入（投資）した時の形のままで、流動資産のように形をドンドン変えるようなことはありません。
形が変わらず固定されている財産。
だから「**固定資産**」です。

3. 流動負債

次に、負債の中の補助線について確認しましょう。
上述の通り、負債は「借金」のことですが、この補助線は借金を返済するタイミング。
上の箱は、「**流動負債**」と呼ばれますが、これは1年以内に返済しなければならない借金です。

具体的な中身としては、まずは、買掛金や支払手形といった「**買掛債務**」。
これらは、「売上債権」の逆パターン。
「月末締め翌月末払い90日手形」という条件で買った場合は、9月10日の購入から、10月31日の手形の発行までの間が買掛金、1月31日の決済までが支払手形になります。

また、短期借入金とは、銀行から1年以内に返済するという約束で借りた借金のこと。
ちなみに、5年返済等、長期で借りた借金でも、1年以内に返済する分は、「流動負債」になります。
その他としては、未払金等。
例えば、まだ払っていない給料や、水道光熱費等がこの項目の中に入ります。

4. 固定負債

補助線の下箱は「**固定負債**」。

1年以上かけてゆっくり返済すればいい借金です。

具体的には、銀行から長期で借りた借入金や、会社が発行する社債等があります。

5. 純資産

最後に純資産の中身についても確認しておきましょう。

純資産は特に補助線を引くことはしませんが、中身については、「**資本金**」と「**その他**」と覚えておけば十分です。

資本金は、会社を設立する際につきこんだ「元手」のこと。

例えば、資本金が1,000万円の会社というのは、設立時に自分のお金を1,000万円つきこんだという意味です。

その他は、すべて「儲け」です。

会社を運営すれば、当然「儲け」が発生しますよね。

こうした「儲け」は、もちろん、自分のお金。

「商品販売の儲け」「自分の株式を売った時の儲け」「安く買ったものが、高くなった時の儲け」・・・

その他は、このような多種の「儲け」と考えておけばOKです

<つづきは次回>